

小川第1・第2・第3保育園が
法務大臣から感謝状が贈呈される

11月22日、宇都宮市文化会館で開催された栃木県更生保護事業関係者顕彰式の席上、小川第1・第2・第3保育園に民間協力者として法務大臣から感謝状が贈呈されました。

同保育園は7月、あじさいホールで開催された社会を明るくする運動南那須大会で園児がよさこいソーラ踊りを披露した経緯から選定されたものです。

渡辺第1保育園長は「感謝状をいただいたのは園児のみならず、保護者、職員の三者協力の結果です。これからも、よさこいソーラン踊りに磨きをかけていきたい」と喜びを語っていました。



県民スポーツ大会で軟式野球優勝

10月21日、28日の両日、県総合運動公園などで開催された平成19年度県民スポーツ大会で、那珂川町の軟式野球が町対抗の部で優勝しました。

那珂川町は初戦の野木町を6対0で制すると、2回戦の都賀町は6対2と順調に勝ち進みました。準決勝の二宮町とは6対0で勝ち、高根沢町との優勝決定戦は、6対5と接戦となりましたが、みごと優勝しました。

その他、上位入賞した種目は次のとおりです。(敬称略)

ゲートボール(町対抗の部) 準優勝
陸上競技(町対抗の部) 男子

青年

100m3位 斎藤 拓也(小口)

走高跳 1位 飯田 和也(小川)

壮年A

3,000m 鈴木 誠(健武)

壮年B

砲丸投げ 小幡 一美(松野)



「川でつながる縄文人」
那珂川ウォーク

なす風土記の丘資料館周辺の川と関連する遺跡を見学し、那須の古代文化を理解しながら健康増進を図ろうと11月4日、那珂川ウォークが開催され、約70人が参加しました。

開会式で桑野正光館長は「那須地域には川を中心とした文化の交流があったことが、数多くの遺跡などから証明されています。この機会に川と人とのかわりを考え、古代に思いをはせながら歩いてほしい」とあいさつしました。

参加者は湯津上館を出発し、侍塚古墳や那須官衙遺跡、駒形大塚古墳、神田城跡などを見学しながら約16kmを歩き、里山の秋を満喫しました。



第26回県北少年剣道大会

26回を迎えた県北少年剣道大会が11月25日、小川体育館で開催され、20団体184人が参加しました。

開会式で川崎和郎大会会長は「剣道は礼に始まり、礼に終わる。剣道を通じて心身ともに育つことを期待している」とあいさつ。馬頭中央剣道スポーツ少年団の星侑貴選手の力強い選手宣誓の後、日ごろの鍛錬の成果を発揮した白熱した試合が展開されました。

なお、那珂川町からの入賞者は次のとおりです。(敬称略)

第3位 4年男子 滝原航大(馬頭)

6年男子 星 侑貴(矢又)



第4回広重紅葉まつり



馬頭商工会まちづくり委員会主催による第4回広重紅葉まつりが11月24日、開催されました。

役場庁舎前に特設された広重お祭り広場では、鷲の子囃子や子どもたちによる那珂川よさこいソーラン等が披露されました。また、地元商店街の協力による模擬店が出店されるなど、賑わいました。

午後5時からは、馬頭広重美術館周辺の紅葉ライトアップに合わせ、鳥山女子高生による琴の演奏や地元住民によるゴスペルコンサート等が行われ、多くの方が楽しんでいました。

父親の家庭教育を考える集い



家庭教育オピニオンリーダー「すくすくの会」は11月25日、馬頭総合福祉センターで、河内教育事務所の柳澤邦夫氏による「父親の家庭教育を考える集い」を開催しました。

未就学児から高校生までの子どもを持つ保護者32名が参加し、社会と子どもの生活環境の変化とその問題点についての講演を聴きました。

柳澤さんは、「子どもは育つ環境を選択できず、良くも悪くも、親が環境を作っていることを自覚してほしい。子どもの社会力を養い、逆境に負けない根性のある子を育ててほしい」と話していました。

女性防火クラブ消火競技会



消火器の使用方法を熟知し、万一来て備えて素早い初期消火が行えるよう11月23日、馬頭運動場で、第2回那珂川町女性防火クラブ消火競技会が開催され、41チーム82人が参加しました。

競技は、15m先の炎を指揮者と消火者の2人で消火し、時間と消火器の操作を競うものです。

選手たちは、炎の熱と消火器の白煙にも負けずに、懸命に消火競技を行っていました。

競技会結果 (敬称略)

優勝 健武B

(露久保初代・田村 里子)

準優勝 浄法寺梅曾C

(増子 智子・穴山由里子)

第3位 盛谷B

(内田 初代・益子 栄子)

馬頭地区でヤマメの稚魚を放流



町の貴重な環境資源である河川にヤマメを放流し、漁業並びに観光の振興を図り、子どもたちに水産業や環境保護について理解を深めてもらうと11月26日、馬頭地区の那珂川支流7カ所で、体長約15cmのヤマメの稚魚100kgを、放流しました。

参加した小・中学生たちは、「ヤマメは、清らかな水の流れでないと生きられない魚なので、成長したヤマメの姿が見られるよう川をきれいにしましょう」と説明を受け、「大きく育てほしい」と願いを込めながら放流していました。